各会議等の実施状況報告について

提出日	令和3年1月28日
担当課	図書館

会議名称　第2回湖西市子ども読書活動推進計画策定委員会

開催日時 令和 2 年 12 月 18 日 （ 金 ） 10 時 00 分 ～ 11 時 40 分

開催会場 湖西市立中央図書館 学習研修室

会議内容

1　教育長あいさつ

2　委員長あいさつ

3　協議事項

(1)　第1回策定委員会からの変更点について

・計画の期間は令和3年度から令和7年度までの5年間とする。

・第2次湖西市子ども読書活動推進計画の取り組みと成果

(2)　施策の方向と取り組みについて

第1章　基本方針

質　「大人自身の読書活動を推進」とあるが、現在、成人に対する啓発は行われているか。

答　図書館ウェブサイトの使い方講座や大人のための工作教室などを行っている。また、季節や行事に合わせた魅力ある特集を展開するよう工夫している。公式ツイッター等で情報発信をしている。

第2章　第2次計画における取り組みの成果と課題

質　ブックスタートの配付率はどれくらいか。

答　基本は満1歳までに配付しているが、配付できなかった場合には1歳6ヶ月健診時に配付している。健診後の配付率は約93%である。全ての人に読書の機会を提供するために、100%を目指さないといけない。

意　「学校における子どもの読書活動」において、「親子読書」という言葉が使われているが、市の「7つの取り組み」に合わせて「語らい読書」という表現にしたほうが整合性がとれるのでは。

質　「学校における子どもの読書活動」の課題として、司書教諭の時間確保が挙げられている。現状についての説明が欲しい。

答　司書教諭は図書以外の業務もあり、1週間のうち約1～2時間しか図書室で仕事ができていない状況である。現状では、司書教諭の空き時間に学校司書に来てもらうことで学校司書と話をしている。司書教諭が多忙でも、ボランティアさんと学校司書が連携してくれている。

第3章　第3次計画の具体的な取り組み

「1　家庭における子ども読書活動の推進」について

説明 「家読」という言葉を使用しているが、これは今まで「親子読書」と表現していたもの。国の計画に合わせて表現を変更した。電子メディアの良さもあるが、本の良との違いを踏まえた上で伝えていきたい。

意　家読という言葉を広げていくために、SNSを利用するのはどうか。例えば、「我が家の絵本コーナー」や「我が家の読書スペース」など市民から募集するというようなもの。他の家庭の様子を知ることで、家庭の中に本が身近にある環境づくりにつながるのではないか。

質　市民の図書館利用カード保有率はどのくらいか。

答　約3分の1の2万人台である。実際に利用しているのは、市民の約2割。つまり、市民の約8割は図書館を利用していないことになる。

意　図書館カードを作成することが図書館を利用する第一歩となるため、図書館カードの作成を推進するような提案をしていく必要があるのでは。

「2　地域における子ども読書活動の推進」について

説明 前回、色々な施設に本を設置するのはどうかという提案があった。現在は学校、保育園、老人施設に団体貸出をすることが多いが、例えば病院や体育施設にも広げて貸出をすることができるのではと考えている。

意　推進目標の達成度を数字で表すのであれば、年間貸出数となると思うが、数字で表せるものばかりではない。例えば、ふたば学級は子どもの出生数が年々減少しているため、数値を増やすということは難しい。しかしながら、読書活動を推進していく上でとても大切な事業であり、図書館員による読み聞かせ講座は保護者からも好評なため、継続していくことを目標としたい。将来的な目標としては、様々な選択肢がある中で、余暇を過ごすときに読書を選択する人を増やしていくということだと考えている。

「3　幼稚園・保育園・こども園における子ども読書活動の推進」について

質　公立の幼稚園、保育園、こども園では日に一回は絵本の読み聞かせを実施している。また、月一回程度ボランティアが来園し絵本の読み聞かせ等を実施している。家庭では一週間に一回絵本の貸出をし読み聞かせをお願いしているが、各家庭によって環境が違うため差が出てしまうように思う。推進目標の「親子読書の取り組みの実施率」は、どのような数値をいうのか。

答　県の推進計画にある努力目標の中に「保護者に対する啓発活動の実施率」というものがあり、これと同様に啓発活動の実施率を推進目標としたい。啓発活動の中には、家庭への絵本貸出やPTAによる保護者への講演等が含まれる。

意　ブックスタートや乳児検診、ふたば学級等で絵本のよさを繰り返し伝えることができているのは良いことだと思う。忙しい保護者も多く家庭での読み聞かせは各家庭で差が大きい。園生活の中でも繰り返し伝えていくことが大切だと考える。

「4　学校における子ども読書活動の推進」について

質　見直し提案の中で、「主体的・対話的で深い学び」とあるが、どのようなものか。

答　いわゆるアクティブラーニングというものである。黒板をにらめっこして講義を聞くだけでなく、自分の意見を持って友人と話し合い、自分の意見を深めていくこと。教科書を知識として教えるのではなく、自分が得た知識でさらに何ができるのかという学びである。これは自分の意見が無い、ただ分からないから人に聞くというものではない。あくまでも自分の意見を持って、他の人と対話をすることで学びを深めていくということである。

「5　図書館における子ども読書活動の推進」について

説明 図書館に関心の無い方や利用したくてもできない方など、現在図書館を利用していない方たちに対して、図書館を利用してもらうきっかけづくりをしていくことが課題だと考えている。そのような方たちへのアプローチの一つとして、電子図書などのデジタル社会に対応した資料提供を考えなければならない。

意　図書館は様々な世代や職業の方が利用しており、あらゆる価値観に触れたり、新しい発見やつながりを得ることができる場所。様々な方への図書館サービスを考えていくことが必要である。

「6　啓発・広報等における子ども読書活動の推進」について

意　図書館公式ツイッターをよく見ている。新しい情報を気軽に手に入れることができ便利である。ツイッターの特性を活かし、堅苦しくなく親しみやすい文章で投稿されているため、図書館を身近に感じてもらえるのでは。

意　湖西市のラインアカウントでも図書館のお知らせを投稿しているのは良い。ラインアカウントをはじめウェブから情報を得ている保護者が多いと感じている。

(2)　今後のスケジュール

第3回策定委員会で原案の確認を行う。